

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100103		
法人名	株式会社 アルテライフ		
事業所名	グループホーム えがおの花大釜(すみれ)		
所在地	〒020-0763 岩手県滝沢市大釜大畑72番地6		
自己評価作成日	令和3年11月21日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家族を入居させたいと思えるような施設を目標に、入居者様やご家族様とより良い関係を築けるよう心掛けています。職員が全て介助するのではなく、共同生活の中でその人の役割が持てるよう、色々な事を職員と行ってみたりします。各ユニットごとに誕生日会を開いたり、新型コロナウイルス感染予防の為外出を控えているので、施設内で体を動かせるようにごぼう先生のDVDなどを使い歌に合わせて体操を行っております。その他に施設の畑でトマトや枝豆、サツマイモ等のいろいろな野菜を入居者様と一緒に育て収穫し、食事に使ったりなどもしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立当初からの基本理念「縁(えにし)」、いままでの縁もこれからの縁も大切にする暮らしの実現に向け、職員が真心をもって誠実に取り組んでいる。利用者一人一人の担当制を採用し、各職員が本人や家族との信頼関係を確立して安心してホームで暮らす仕組みができています。職員の言葉遣いは、弱みとしての意識を既にもっており、ユニット会議で情報共有しながら改善に努める姿勢がある。コロナ禍の現在、できることをやろうとする考えのもと、職員提案による「ごぼう体操」の導入などが実践され、好評を得ている。様々な制限の中、地域とのつながり、災害発生時の協力体制が懸案になっているが、取り組みへの意気込みがあり、今後、運営推進会議などを通じて解決していくことが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年12月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付く場所に掲示し意識付けを行っている	基本理念「縁(えにし)」とそれに基づく運営方針は設立時に作成され、目指す姿としてその実践に取り組んでいる。具体的な行動として、ユニットごとに2、3か月単位での目標を設定し、達成されたかについての自己評価とともに、新たな目標を立てる仕組みができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、今年度はコロナウイルスの関係で行事などには参加できなかった	自治会に加入し町内会活動に参加していたが、コロナ禍により困難になっている。また、チャグチャグ馬こ見物や近隣の小学校からの職場見学も中止になった。10月からオレンジカフェが始まり、地域とのつながりの今後に期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェなどは入居者を連れて行き、他のグループホームの方々と開催していたがコロナウイルスが拡大してきてからは開催を中止していたが、10月より再開し当施設からは職員のみ参加ではあるが、地域の方々にお話やアドバイスなどを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大の為、第3回までは書類のみであったが、11月開催の第4回は対面で行うことが出来たので意見等を活かしていきたい	2か月に1回開催され9月までは書面会議であったが、コロナ禍の状況に落ち着きが見られたことから、11月には集合形式での開催ができた。夜7時から近くのコミュニティセンターでの開催とすることで、自治会長や民生委員、地域包括支援センターや駐在所署員など多くの委員の参加があり、事業所の状況について理解をいただくことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課・地域包括支援センターと連携を取りながら協力して頂いている	行政とのやり取りは、市直営の地域包括支援センターを通じて行うことが多く、センターには運営推進会議にも参加いただき、各種相談や入居者に関わる情報をいただくなど協力関係を築くことができています。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	眠りSCANや人勧センサーなどの見守り機器を使いながら夜間柵などをしないようにしている。施錠に関しては、来客の方が検温をせずに入らないようユニットと玄関をつなぐドアは掛けている。特定の入居者様は窓から出ようとする方がおり、ご家族様了解のもと窓を開けないよう鍵を追加している。	身体拘束防止の指針があり、3か月に1回委員会を開催し併せて研修会を行うなど、拘束の無いケアの実践につなげている。窓から外出してしまう利用者については、家族からの申し出により安全確保のため別の鍵を付けた事例がある。安全の確保が安易に拘束にならないように気を付けている。スピーチロックを見受けたときには所長が注意したり、ユニット会議で話し合ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的には勿論だが、入居者に対しスピーチロックなどを行わないよう職員にも共有してもらっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先々必要性があると判断した場合は家族に相談したり制度の説明をしたり、活用に向けて検討していただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にパンフレットや資料にて十分説明をし、了承を得た上で契約を結んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で聞かれた要望や意見などは職員間で共有しケアの向上に努めている	利用者やその家族の要望等については、入居時に詳細に確認し、入居後も担当が毎月の報告の際に聞いている。意見の一つとして、「言葉遣いが強いのではないか」との指摘があり、耳の遠い方への伝え方など職員会議で話し合って改善している。本人からの希望は常に意識しながら聴くことに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議のほか、ふだんの業務の中で意見や提案があれば検討し、利用者や職員にとって良いものであれば取り入れるようにしている。	職員が自己評定してそれに所長が意見を添え本社へ送っている。コロナ禍で社長との面談の機会が無くなっているものの、日常的に職員からの提案があり、具体例として人感センサーやマンネリ化していた体操に変化をつけるため室内体操用のDVDの導入などがある。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの為の研修受講や、施設からの研修案内などをし、受講の際は業務上の配慮を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設としては感染予防の為、率先して研修等の参加を進めてはいませんでしたが、感染が減つてからは系列施設での研修や認知症実践者研修への参加は行いました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	10月よりオレンジカフェが再開となり、管理者が参加し他施設の管理者さんや地域包括の方などと情報交換しております		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調や入居時の聞き取り時に、本人の話を十分に傾聴し、本人が安心して過ごせるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実調や入居時の聞き取り時に、家族の不安や要望等を気兼ねなくお話しできるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りを行い、ご本人、ご家族様のニーズを見極め安心できるような対応が取れるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る作業やレク活動など、無理のないよう一緒に行い安心して過ごせるよう努めている		

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や消耗品の補充などをお願いしている。施設での生活状況などを、手紙やお電話などで伝えし関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会できなかつたが、規制緩和により制限は設けているが面会が出来るようになった。通院時などご自宅でご飯を食べゆっくりとお話してもらえないか等支援に努めている	半数の利用者が家族による通院介助を受けており、その際に自宅で食事をしてもらっている。コロナ禍で面会制限があるものの、家族だけでなく親戚や友人、近所の方の訪問などがあり、馴染みの関係が継続されている。2か月に一度の訪問理容も新しい馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないよう声かけなどはしているが拒否が激しく一人を好む方もおられる。なるべく皆様とコミュニケーションが取れるよう間に入って支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も職員同士で話に出ることはあるが、ご家族様から連絡が無ければフォローまでは行っていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の思いや意向を聞くように努力しているが、遠慮したり訴えが出来ない方もいるので、会話や表情が汲み取るよう努力している	男性利用者で率直に訴える方もいれば、ほとんど話すことのできない方もおり、その人に合わせて言葉だけでなく、仕草や表情で気持ちを読み取ることに努めている。担当不在時は、パソコン端末に書き込み、情報を共有する仕組みができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調時や入居時などに、御本人やご家族様から情報を提供して頂き支援に活かすようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を記録に残し、職員で情報共有し把握に努めている		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にて全員のモニタリングを職員間で行い、現状に適した介護計画を作成出来るように努めている	6か月ごとの見直しを基本に、ユニットごとに会議の場で担当者が利用者の状況を報告し、意見交換のうえで計画作成担当者がケアプランを作成している。事前に家族の意向確認、医療機関からの情報を加味するとともに、担当不在時のパソコン端末に書き込まれた共有情報も役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りなどから職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応できるよう心掛けているが、コロナ禍の為出来ないこともある為多機能には出来ていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で外部の方を招いての行事や、外出したりなどは出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族様が希望される医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。主治医への状態報告を行い、医療機関との連携に努めている	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診しており、訪問診療を利用している利用者もいる。家族の通院同行が原則であるが、家族が遠方であったり高齢の場合や介護タクシーの利用が困難な場合などには、事業所に対応している。医療機関への状態報告などしっかりした連携ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問して頂き、状態報告や健康チェックをしてもらい助言や指示を頂いている。夜間の体調急変時にも電話対応して頂き、必要時には来所してもらっている		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーや電話にて担当看護師や、地域医療連携室などと情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命治療に関してのご家族の意向を確認したり、重症化した際のご家族の希望を確認し、主治医からの意見やアドバイスをいただき支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の対応は、浴室等の関係で現状ではできないことを説明し了解を得ている。介護度が重くなって浴槽の出入りが困難な身体状況になってきた場合には、対応可能な施設への入所を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル、資料などはあるが、実際の体験時には少し不安がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、地域との協力体制がとれているか不安	避難訓練は年2回を計画し、コロナ禍の状況をみて、火災想定で11月に2回実施した。2回目には消防署への通報訓練も行っている。訓練においても近隣からの参加、協力が課題であり、検討を進めている。食料は5日分を備蓄している。	災害対策に地域の協力が不可欠であることから、近隣のコンビニエンスストアからの協力なども視野に入れ、体制を確保することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあった声掛けや対応を努めてはいるが理解して頂けないこともある	トイレや入浴への合図としての声掛けなど、利用者それぞれの個性やその日の状況に配慮した呼びかけに努めている。夜間のトイレについて、何度も繰り返して夜勤者に迷惑をかけるとして遠慮する利用者があったが、利用者の尊厳を守り、遠慮することの無いよう支援に努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状が進み自己決定が難しくなっている方はいるが、働きかけはいるが忙しい時など出来ない時もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に頂くよう支援するように努めてはいるが、職員側の決まりや都合を優先してしまうこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服などは一緒に選ぶように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日メニューとして食べたいものをお聞きしたり、話せない方は好みの物をお出して楽しんで頂くようにしている	パソコンソフトで栄養価などが配慮されたメニューの中からユニットごとに献立を作成している。庭の野菜を活用するほか、買い物は2日に1回で、以前は利用者も同行していた。本人の好き嫌いを聞き、刺身や寿司の希望にもできるだけ応えている。誕生会には特別メニューにするなど食事を楽しむことができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録に残し、情報共有し必要な栄養、水分を確保できるよう支援している。経口補水液や、嚥下機能が低下している方にはとろみをつけたりゼリーを提供するなどをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、一部介助、全介助などで仕上げを行っている。歯ブラシでの磨きが難しい方はスポンジブラシなどを使用している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できるだけトイレの排泄が出来るようトイレ誘導や、声掛けを行っているが難しい時もある	日中は半数が自立、残りがリハビリパンツの利用等で、夜間はポータブルの利用が3人となっている。便秘気味の利用者については、下剤などに頼らず、乳酸菌や朝の牛乳を飲むことによって改善がみられている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促したり、毎朝牛乳や乳製品を摂取して頂き、自然排便が出来るようにしている。難しい方はかかりつけ医にアドバイスをいただき下剤調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回入浴して頂いているが、通院や外出などがある際は前日に入浴できるよう調整している。声掛けなどで拒否がある際などは日にちを変更したりしている	それぞれの生活リズムを勘案しながら週2回の入浴を確保している。脱衣所が狭いことから、車いす利用者の介助には様々な工夫がある。ヒートショックが無いよう、水分補給にも配慮し、入浴は利用者一人一人とゆっくり話す良い機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお昼寝以外は離床して頂き、メリハリのあ生活リズムを作ることを心掛けている。一人ひとりの体調や足の浮腫みの緩和など、体に負担のないよう日中でも静養を促すこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルし確認できるようにしている。薬の変更等があった際は職員間で情報共有し、体調の変化など観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業、食器拭き等その人が好む作業を気分転換に行って頂いたり、レク活動で体操やゲーム、歌などを楽しんでもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年であれば、お花見やドライブ、リンゴ狩りなどに出掛けていたが、今年はコロナ過で難しく地域の人たちとの交流も出来なかった	コロナ禍でなければ、ユニットごとに8人乗りの車両と2台の軽自動車でお花見やリンゴ狩りに出かけていたが、現在は困難になっている。10月からオレンジカフェが再開されたことから、徐々に外出の機会が増えてくる状況にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が事務所管理になっている。本人の要望があれば代わりに購入し本人に渡している		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの様子伺いの電話などの際はご本人に代わりお話をしてもらっている。年末にはレクの一環で家族宛に年賀状を作成して送るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾を入居者様と一緒に作り装飾したりするときもある。気温に応じ共用部、居室の温度、湿度調整を行っている	日中の多くを過ごすリビングは、温度や湿度の管理が行き届き、明るく、テーブルとイス、ソファやテレビが備え付けられ、一角には畳のコーナーもある。この時期はクリスマス関係の装飾があり、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮した食席などを配置している。テレビや、パズル、本など自由に過ごせるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものなどをお持ちいただくようご家族にお願いしている。居室のご家族の写真を飾ったり、入り口のメモリアルボックスに思い出の品などを入れ、ご自身の居室の目印にしている方もいる	エアコン、ベッド、洗面台が備え付けのほか、加湿器が各部屋に設置されている。衣装ケースなどはそれぞれが持ち込み使いやすく置かれている。居室の入り口には、メモリアルボックスという透明ケースがあり、写真や自分の作品などが収納され目印になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には各入居者の名前を掲示して自分のお部屋を分かるようにしている。トイレなどにも表示し危険なものは置かないようにしている		